昭和五十年度社会教育計画決まる

各層の指導者研修と子ども会育成に力点

三月二十五日村議会で昭和五十年度の村予算が可決された。

本年度の社会教育事業予算は、昨年度当初予算に比較して二三・八%増の一三、五八八千円。教育費の六・三%にあたる予算である。

本年度は財政硬直化のおり充分な事業計画がたてられなかったものの、①指導体制の充実。②総合的社会教育の推進。③学校跡地利用の調査。④第二次社会教育中期計画の策定など、重点施策をうち出し、「生涯教育」の理念に立って住民の主体者形成をはかりながら、新しい時代にふさわしい知識、能力の習得機会と場を提供、そして住民がより良い生活を築くための教育活動の助長、奨励をし、社会教育を推進してゆく方針である。

本年度のおもな事業は、三頁・四頁の下段に記載してあるが、重点事業を紹介すると

①各層の指導者研修会開催。社会教育活動が更に充実、振興する条件として指導者の問題が強くのぞまれている。そこでジュニアリーダー、青年団体、青少年育成会、若年婦人層、婦人団体などを対象にそれぞれ指導者養成がされる。

②家庭教育学級の充実。子どもの健全育成の基盤は家庭での役割が最も大切であるところから、幼児、児童をもつ父母を対象にした家庭教育学級を四学級開設し、その充実をはかる。

③子ども会の育成。健全な子どもを育成するために両親はもちろん、地域ぐるみで温く見守る必要がある。従って、地域の育成会、PTA組織を基盤に地域子ども会の育成をはたらきかけ、村内に四つの子ども会に活動費の補助をする。

また、ジュニアリーダーを養成するために、公民館で少年教室を開設する。

④郷土芸能継承後継者養成。村内にある沢山の郷土芸能は、最近若い人たちに受け継がれようとしている。しかし後継者がいなくて消えてしまった郷土芸能は少なくない。今年度は特に笛、太鼓の継承を中心に子どもや青年層を対象に、後継者養成講座を二地区を指定し、開設する。

⑤巡回図書の充実。公民館図書の充実をはかるほか、地域の方が容易に利用できるために、巡回図書を更に充実する。毎月一日には、沢海・小杉地区に、毎月十六日には木津・二本木地区に配本し、十五日間利用できるようにする。

⑥分館事業の充実。小学校統合を明年度に控え旧小学校舎を分館活動の拠点として利用するために、旧校舎利用計画をたてるために調査活動を行なう。

地域の諸問題について青年、婦人、老人、部落関係者が熱心に話し合い

青少年育成事業 教委へ移管

役場住民課に窓口を置いていた青少年育成事業（青少年問題協議会、青少年育成会などの事務）を昭和五十年度から教育委員会に移され社会教育関係の青少年教育事業としてとりあつかわれ充実をはかることになった。

昭和五十年度の社会教育の重点事業にもあげられているように、今年度は特に就学児童、生徒の健全育成対策が講じられることになった。

青少年の健全な成長は、家庭、社会、学校の相互協力の中にあってはじめて達成されるものである。

従って、PTA、育成会、地域の組織の機能を充分発揮するなかで、青少年を育成する必要がある。

このことから地域子ども会を各地で育成推進が必要である。村教委では、今年度四カ所を指定し補助金を出す計画である。

また、少年団体リーダーを養育するためジュニアリーダー研修を開催するほか、少年教室を五月から毎月一回開催する予定である。

一方、青少年問題協議会では、今年度青少年の実態把握をするなかで、青少年健全育成対策の指針をうち出す予定である。

少年教室 学級生募集

○参加申込み　四月三十日まで公民館へ
○応募資格　小学校五・六年生、40名
○内容　リーダーとしての心構え、集会、ゲームのもち方、野外活動、奉仕活動、広報活動の方法、村の史蹟名勝をさぐる、昔と今のあそび研究、他
○学習日　五月から毎月一回、土曜日

書道教室 学級生募集

○参加申込み　四月三十日まで公民館へ
○応募資格　一般成人
○内容　ひらがな、楷書、行書、草書
○講師　交渉中
○学習日　五月から毎月一回　日曜日

横門ク三連勝

大丸杯籠球大会

三月九日、大丸杯籠球大会が村上高校、桜ケ丘高校の二会場で開催され、本村横門クラブAが優勝し、この大会で横越勢が三連勝を飾った。

この大会には本村の横門クラブA、Bの二チームを含め18チームが出場した。

優勝した横門クラブAは、高校生を中心にしたチームで初戦に豊栄クラブと対戦、延長戦で一ゴール差で勝ち、苦戦したものの、桜ケ丘B、朝日クラブ（新潟）を破り決勝進出した。

決勝戦は、強豪日本鋼管（新潟）と対戦33-53で勝ち、この大会に横越勢は三連勝をした。

一方、一般男子を中心にした横門クラブBは、初戦で中条クラブと対戦、惜しくも敗れ、昨年のような横門クラブ同志の決勝戦実現は出きなかった。

なお、この大会で石井登君が最優秀選手に、和澄孝男君が優秀選手に選ばれた。

横越分館で新しい村づくり研修会開催

横越分館では、三月二十日新しい地域づくり研修会を開催した。

中川村産業経済課長の〝新しい村づくりにおける農村環境整備事業〟と題して講義がされたあと、六分散会で①魅力ある環境づくりはどう進めたらよいか。②不合理な冠婚葬祭の改善について。③青年が希望する村づくりとは。について熱心に話し合いがされた。

この研修会には、横越地区の青年、婦人、高令者、隣組役員、部落関係者など二一〇名が参加した。

新津保健婦長を招き 新婚学級

三月十九日、村公民館と村保健衛生課の共催で新婚学級が開催された。

昨年秋から今春にかけて結婚された夫婦を対象に行われ当日十一組の夫婦を含む二六名が参加した。

講師には、新津保健所菅原保健婦長を招き、結婚とあわせ、結婚と健康、性生活などについて講義がされた。

村連青団長に 小嶋明夫君

村連合青年団総会が三月三十日開催され、昭和四十九年度の事業報告と決算報告があったあと、役員改選が行われた。

その結果団長に小嶋明男君（小杉）が、副団長には、阿部嘉寿一君（横越）と串田幸子さん（藤山）が、また、会計に阿部修一君（横越）が選出された。

なお、五十年度の事業計画については、新役員体制で立案される。特に、女子団員対策が注目される。

第四回 俳句作品公募

～初心者の方大歓迎～

(1)公募句題（通じて六句）
○鵜　○炎
○鮎　○土筆
(2)〆切　四月二十日まで
(3)選者
桑野鉢松（新潟）、中山貴美（新潟）、須藤雷笠（中条）、坪谷赤雨、今井秀虹（佐潟志賀）（以上小阿賀吟社）、田中都郎（公民館長）

・社会体育関係
県民スポーツの日行事　六月
フォークダンス教室　六月四回
社交ダンス教室　十一月、十二月、五回
民踊教室　十月四回
スキー教室　二月
村民野球大会　八月
早起野球大会　六月　二月
卓球大会
バレーボール大会　一月
村民ハイキング　九月
村民運動会　十月
・その他社会教育関係
広報よこごし発行　毎月一回
成人式　八月
公民館結婚　通年
分館事業関係　通年

体育協会部門紹介

野球クラブ

毎年公民館で行われている村民野球大会に村民野球は一四、五チームの出場であったが昨年は一八チームという近来にない出場で野球熱が高まってきた。

最近の傾向として、かってのような青年団チームに変って職場チーム、クラブチームが大半をしめるようになってきたことである。

昭和四十五年以降クラブチーム結成がさかんになり、横越クラブをはじめ、二本木クラブ、ゴールデンアームズ（横越）、ロートルズ（横越）木津一、陽光（沢海）などがつぎつぎに結成された。

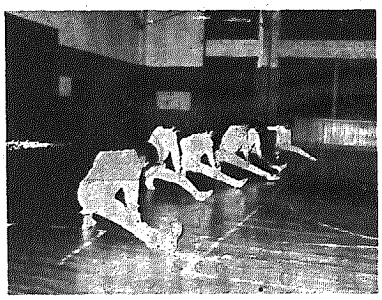
ユニホームもカラフルで、プロ野球界で話題をまいたベルトレスのユニホームも登場している。

このように、クラブチームが結成された要因として、スポーツ活動を通して同好の志を集い、親睦を深め、仲間意識を高めるということがあげられるが、昭和四十七年村連合青年団の手によってつくられた焼山野球場、昭和四十九年沢海小PTAを中心につくられた沢海グランドなど施設が大きな要因であろう。

昭和四十九年四月、村体協が結成され、体協加盟クラブは、横越クラブ、二本木クラブ、ゴールデンアームズで、それぞれ活躍もめざましく、横越クラブは四十八年高松宮賜杯県大会で準優勝をした。またゴールデンアームズは四十八年村民野球大会で優勝をしている。

野球シーズンはこれからであるが、クラブでは、冬季間寒風をついて基礎体力をつけるべく、週三回横中体育館で、ランニング柔軟体操、テイパッテングなどハードなトレーニングをしている。

今年も県大会出場と打倒亀田を目ざすとともに、①横越に野球の伝統をのこし築く。②高度な技術を学びチームプレーに徹す。③心技両面を充実村民の範とする。を合い言葉で今日もきびしい練習を行っている。



昭和五十年度の社会教育の